



ピロリ菌検査

何をする検査？

尿を提出していただき、検査を行います。

何を見ているの？

尿の中に、「ピロリ菌に対する抗体」が排出されているかどうかを調べます。

何がわかるの？

「ピロリ菌に対する抗体」を持っているということは、ピロリ菌に感染しているということがわかります。

ただし、過去に感染していた場合でも陽性となります。

どんな人におすすめ？

胃がんの家族歴がある人、30歳以上で胃カメラ未経験の方、胃潰瘍・十二指腸潰瘍の既往がある方、胃痛、胸焼けなど胃の不調が続く人は、ピロリ菌に感染しているかどうかを確認のため検査を受ける事をおすすめします。

● 尿中ピロリ抗体

【 - 】
陰性

【 + 】
陽性

検査結果が（+）となった場合は、ピロリ菌に感染している。または感染していた可能性があります。

胃癌の原因となるピロリ菌は、日本の40歳以上のかたの7割から8割の方が感染しているといわれています。その多くはピロリ菌に感染した親から子供への口移しや食器の共有などが主な感染経路とされています。

将来的な胃癌のリスクを減らすため、プチ健診を受けて、感染の有無を確認し、陽性の場合には除菌治療を行うことをおすすめします。

検査の結果は、医学的な診断を示すわけではありません。
検査結果が気になる方は、検査結果をお持ちの上、受診をしてください。